

平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	盛岡	学校名	盛岡市立城北小学校	TEL	019-641-0187
------	----	-----	-----------	-----	--------------

問題解決学習の過程を基盤とした授業の充実とノート指導の連動を意識した学力向上の取組

【ねらい】

(1) 児童一人一人が明確な問題意識を持てるような導入段階の工夫をするとともに、本時のねらいに即した学習課題（めあて）を毎時間ノートに書けるようにノート指導を行うことにより、児童が意欲をもち主体的に学習に取り組めるようにする。

※岩手県学習定着度状況調査における児童質問紙項目「普通の授業で、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を確認していると思いますか。」の肯定回答割合の向上（H25 値 84.5%からの引き上げ）

(2) 問題解決学習の過程に基づいた授業展開の充実とノート指導を連動させることで児童の思考過程が着実にノートに残るよう配慮するとともに、授業の終末場面における「まとめ」や「振り返り」に関するノート指導を意図的・計画的な指導を行うことにより、児童一人一人が学びの成果を実感し達成感を味わえるようにする。

※岩手県学習定着度状況調査における児童質問紙項目「普通の授業で、最後に学習する内容を振り返る活動をよく行っていますか。」の肯定回答割合の向上（H25 値 85%からの引き上げ）

【具体的な取組】

(1) 問題解決学習の過程に基づいた授業展開とノート指導の連動の全校統一での取組

本校では平成25年度まで盛岡市教育委員会より3年間の研究指定（学力向上）を受け「自分の考えを表現する活動のあり方」を中心に据えながら、主に国語・算数での問題解決学習の充実を努めてきた。

その柱となっているのが右図上側にある「かがやくよ」である。これは全校統一して取り組んでいるもので、各教室にも掲示しいつでも子どもたちが確認できるようにしてある。学習過程

〈学習の進め方〉

か 考えよう 今日の学習

が 学習課題をつくろう

や やってみよう 自分の力で

く 比べてまとめよう みんなの力で

よ よさをみつけよう 自分と友だち

☆ 城北の子 ☆

程は「か…考えよう今日の学習」「が…学習課題をつくろう」「や…やってみよう 自分の力で」「く…くらべてまとめよう みんなの力で」「よ…よさをみつけよう 自分と友だち」というように問題解決学習の流れを5つのキーワードでわかりやすく示すとともに、各教科とも原則としてこの流れに基づいた授業展開を行っている。

また、このことと連動したノート指導「城北ノート かがやくよ」にも取り組んでいる。右図下側は城北ノートの基本形を児童にわかりやすく示したものであり、ノートの表紙裏等に貼りいつでも確認できるようにしてある。

「城北ノート かがやくよ」の書き方

① 日（曜日）

② (問題・単元名など)

③ 学習課題

④ (定規を使って書でかこみしよう)

⑤ (自分の考えや読み取り、予想) 文、絵、図やじりしなどを使って 他人の人にわかるように書くように 自分が説明できるように

⑥ (みんなが考えたこと) ※黒板に書かれたことは必ず書きましょう！

⑦ ☆友だちの考えを聞いて感じたこと 疑問に思ったこと 考えたこと、などをメモしたり 自分の考えに付け足したりして書きましょう 例・ふきだしをつかう 色を決めて書く やじるしやマーカーを使う

⑧ (定規を使って書でかこみしよう)

⑨ 振り返り 分かったこと、友だちから学んだこと、学習して身についたこと、がんばったこと、むずかしかったことなど

⑩ さがし

(2) 児童に明確な問題意識をもたせるような導入場面の工夫とノート指導の連動への取組

前項で示したように、本校では「かがやくよ」の「か」の段階で児童の問題意識を高め、課題設定「が」の段階へとつなげていくようにしている。これは国語・算数だけでなく他教科においても同様である。課題を書いた後、青線で囲むというのも全校統一して指導している。

平成25年度岩手県学習定着度状況調査における質問紙回答のうち「普段の授業で、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)を確認していると思いますか」の項目での本校での肯定回答は84.5%であった。県平均は85%であり、ほぼ同様の結果ではあるが、授業の導入の段階で課題をノートに書いているものの、中には明確な課題意識をもたないまま授業に取り組んでいるという実態がみえてきた。

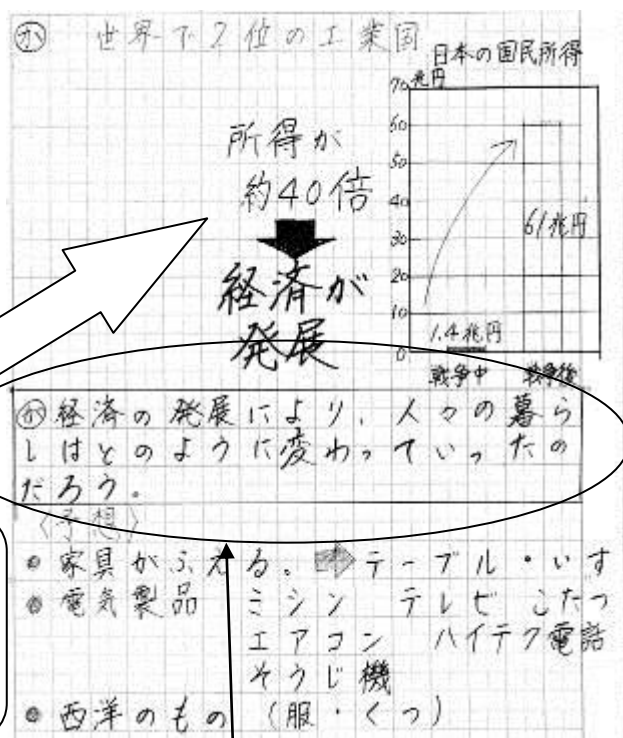
そこで、平成26年度は子どもたち一人一人がより確かな問題意識をもって学習に取り組めるよう、授業の導入場面の工夫のあり方を授業研究会等の機会を通じて実践的に明らかにしてきた。

【実践例】6年社会「平和で豊かな暮らしをめざして」

本時は高度経済成長期における国民生活の変化と経済発展を支えた人々の努力についてとらえ、その意義について考えることをねらいとして行った授業である。

児童に「経済の発展により、人々の暮らしはどのように変わっていったのだろう。」という明確な問題意識を持たせるため、戦後の国民所得の変化のグラフを提示し、わずか20年のうちに40倍を超える水準にまで伸びていることに気付かせた。国民所得の変化から、日本の経済が急速に発展していることを実感させることにより、児童一人一人が国民生活の変化について調べようとする意欲をもつとともに、何を調べたらよいかという追究の見通しをもつことができた。

また、児童も前述「城北ノート」の流れに沿って大事なことをノートに書くことで、学習課題設定の前提となる情報などをしっかりと残すことができた。



板書と確実に連動。学習課題設定に至る過程もしっかりとノートに残す。

学習課題は必ず「青線」で囲む。

(4) 授業の終末場面における「振り返り」の記述に対する指導の取組

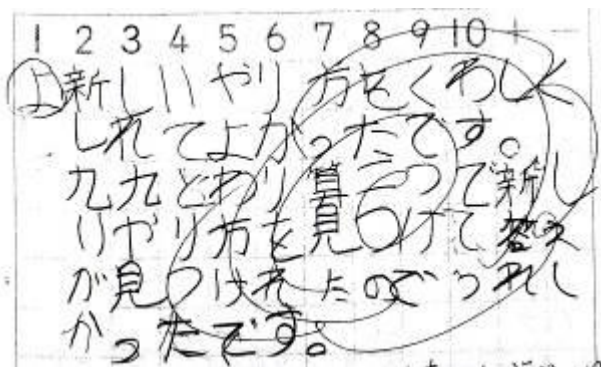
本校では「かがやくよ」の「く」の段階での「まとめ」の記述や「よ」の段階での「分かったこと」の記述という形で全校統一して取り組んできているが、平成 25 年度岩手県学習定着度状況調査の質問紙調査のうち「普段の授業で、最後に学習する内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか」の項目について、本校では肯定回答が 85%となっており県平均と同値であった。

このことから、問題解決学習の流れの中で、自力解決した結果を交流し合いより良い考えにまとめていく活動を行っているものの、多くの児童が「本時の学習を振り返ってまとめている」という実感をもたないまま学習を進めているということがわかった。

そこで、本年度は「かがやくよ」のうち「よ」の段階における、児童たちへの授業の振り返りの記述内容の指導・支援のあり方～「何を」「どのように」書かせるのか、ということについて実践を通して明らかにしてきた。

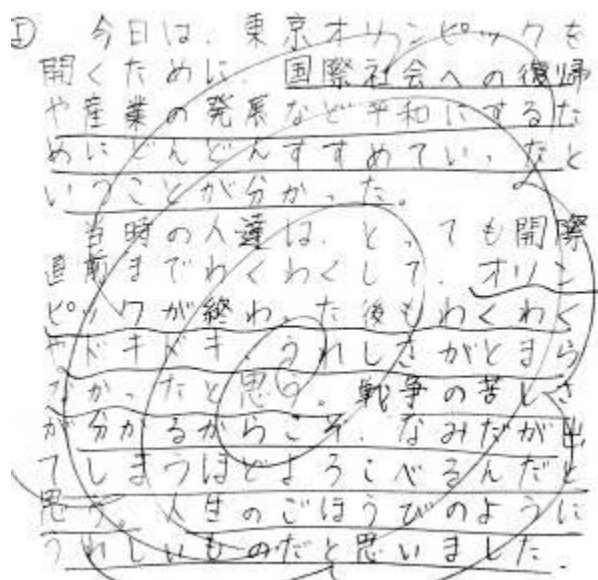
【実践例】3年算数「新しい計算を考えよう～わり算」

算数の授業では授業の終末段階（よさをふりかえろう）で、本時の学習でわかったことを自分の言葉で再構成するとともに、本時の学習の価値（算数のよさ）にも触れて記述させるようにしている。本時では児童が個々の考えをまとめる的確に表現できるようにするため、「学習でわかったこと」「今日の学習をしてよかったと思うこと」のように記述する内容を明確に提示して記述させた。



【実践例】6年社会「平和で豊かな暮らしをめざして」

社会科の授業では「くらべてまとめよう」の段階で「まとめ」として文章化するのではなく、「よさを振り返ろう」の段階で、児童に本時の学習を再構成し文章としてまとめる手立てを取ることもある。本時では「学習でわかったこと」と「当時の（東京オリンピックを開催したころの）人々の気持ちについて考えたこと」の二点を二段落構成で記述するように指導した。



【成果】

平成 26 年度岩手県学習定着度状況調査の質問紙調査のうち「普段の授業で、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を確認していると思いますか」の項目での肯定回答が 88%となり昨年度比でプラス 3.5 ポイントの伸びが見られた。また、「普段の授業で、最後に学習する内容を振り返る活動をよく行っていますか」の項目は肯定回答が 92%となり昨年度比でプラス 7 ポイントの伸びがみられた。これは授業の導入及び終末段階において意図的計画的に手立てを講じてきた成果であると考えられる。

また、「かがやくよ城北の子」の問題解決学習の過程を大事にし、全校で統一して授業改善に取り組んできたことにより、児童一人一人に問題解決学習の流れが定着してきている。そのため、児童一人一人が課題解決の見通しをもって主体的に学習に取り組んでいる様子がみられる。今後もこれまでの内容を継続・発展させながら学力向上に取り組んでいきたい。